

令和5年度自己評価表

<p>中長期目標 (学校ビジョン)</p>	<p>克己の徳を備えた人間力豊かな生徒の育成</p> <p>1 志を持ち、それを叶える確かな学力が身につく 2 自らを律し、何事も率先して自ら行う力が身につく 3 自他を思いやり、他と協力する力が身につく 4 地域を支える社会人として必要な資質が身につく</p>
---------------------------	---

<p>今年度の重点目標</p>	<p>1 志を持ち、それを叶える確かな学力が身につく ①進路目標の明確化 ②基礎学力の向上 2 自らを律し、何事も率先して自ら行う力が身につく ①基本的な生活習慣の確立 ②生徒会活動・部活動の充実 3 自他を思いやり、他と協力する力が身につく ①学校行事・学級活動の充実 ②安全意識・安全技術の向上 4 地域を支える社会人として必要な資質が身につく ①「地域探究の時間」の発展・充実 5 業務改善の取組の推進 ①業務の精選と組織的な実施 ②生徒への適切な対応</p>
-----------------	---

評価基準 A:十分達成 [90%] B:概ね達成 [70%程度] C:変化の兆し [50%程度] D:まだ不十分 [35%程度] E:目標・方策の見直し [20%以下]

年 度 当 初				評 価 結 果 (9) 月			
評価項目	評価の具体項目	目標(年度末の目指す姿)	現状(令和4年度実績等)	目標達成のための方策	経過・達成状況	評価	改善方策
志を持ち、それを叶える確かな学力が身につく	進路目標の明確化	<p>〇ふるさとキャリア教育の体系的な推進がなされ、入学時から進路探究の機会が充実している。</p> <p><指標> 1年:全員が具体的なキャリア目標を1つ以上掲げる。 2年:3つ以上の進路候補について比較・調査を行う。 3年:具体的な進路先について志望理由を明確にさせ、進路実現する。</p>	<p>〇1年生:進路学習を体系的に行い、キャリア形成を図る取り組みを行った。 〇2年生:3回の進路志望調査を通して進路候補について比較・調査を行い、キャリア形成の意識が高まりつつあるが、まだ不十分であった。 〇3年生:総合的な探究の時間を活用し、2学期から将来のキャリアを意識して、毎週進路別学習を行うことができた。また、担任面談をこまめに行い、学校調べや志望理由書の作成等の時間を確保することができた。放課後には出願書類の添削・面接練習、プレゼンテーションに向けての準備を個別に教員とともに行った。 <R4実績> ・1年:ほとんどの生徒が具体的にキャリア目標を1つ以上掲げることができた。 ・2年:3つ以上の進路候補を挙げることができた生徒は5割程度だった。 ・3年:すべての生徒が進路実現できた。</p>	<p>〇1年生:「総合的な探究の時間」を基軸とする体系的な進路学習を通して、自己実現につながるキャリア目標を設定させ、地域社会の担い手としての自覚を促す。 〇2年生:進路ガイダンスや大学等研修などの進路行事を通して視野を広げ、具体的な進路候補について比較、検討させる。また、進路志望調査をもとに生徒一人ひとりの進路目標を把握し、個々に応じたアドバイスを行う。 〇3年生:「総合的な探究の時間」を基軸とする進路別学習の充実を図る。また、進路検討会において、教職員間で情報共有とキャリア目標を実現するための個々にあったアドバイスを検討し、面接週間だけでなく模試の前後など機会をとらえて担任面談や教科面談を行う。 〇全学年:多様化する入試制度に対応するための教職員研修を実施し、教職員の進路指導力向上に努めるとともに、地域とのつながりを体験することを通して将来の生き方・在り方を考えさせるため、ボランティア活動を奨励する。</p>	<p>〇年度当初にあげた目標の取り組み状況は以下の通りである。 1年生:進路適性診断や学部・学科調べを行うとともに、進路ガイダンスを通して自己理解を促し、適性を判断させ、進路目標未定の生徒が減少している。 ・4月19.4%⇒8月16.4% 2年生:7月(ベネッセ総合学力テスト)では、72.7%の生徒が3つ以上の進路候補を挙げている。 3年生:就職希望者は志望理由書を完成させ、面接をはじめとする就職試験対策を行った。進学希望者は、入試形態と入試日程に合わせ、志望理由書の作成に取り組み、受験対策を行っている。進路志望が未定の生徒が数名いる。</p>	B	<p>〇1年生:県内大学研修、文理選択、進路志望調査を通してキャリア意識を高めるとともに、より具体的な志望先を研究していく。 〇2年生:大学進学希望の生徒の多くは3つ以上の進路候補を挙げている。今後は個別面談や志望理由書作成講座、進路志望調査を通して進路意識の向上を図ることで、進路候補を3つ以上あげさせ、比較・調査を行う活動を促す。 〇3年生:学力向上の指導を行っていくことを中心としていく。また、就職希望者をはじめ進学希望者も総合型選抜入試や学校推薦型入試に向かう生徒がほとんどであることから、志望理由書作成を通して志望理由を明確にし、意欲的に面接練習に取り組みさせ、進路実現につなげる。進路志望未定の生徒への面談等、指導を継続する。</p>
	基礎学力の向上	<p>〇どの生徒も授業を大切に、主体的に授業に取り組んでいる。</p> <p><指標> 進研模試・進路マップ(実力診断・基礎力診断)・スタディサポートで、GTZ(学習到達ゾーン)が上昇した生徒の割合 ・1年:3教科総合・・・50%以上 ・2年:3教科総合・・・50%以上 ・3年:3教科総合・・・50%以上</p>	<p>〇1年生:授業で学力をつけることを第一に据え、習熟度に対応した審査や個別添削、遅進者への学習指導などを行い基礎学力の定着に努めた。 〇2年生:授業を大切に、審査前指導や課題の提出指導を行ったが、学力向上の取組を十分に進めることができなかった。 〇3年生:大半が総合選抜・学校推薦型入試を活用したため、志望理由書作成や小論文・面接対策に意識がいき、学力向上の取組を十分に進めることができなかった。 <R4実績> GTZ(学習到達ゾーン)が上昇した生徒の割合 ・1年:3教科総合・・・56.2%(1月模試との比較) ・2年:3教科総合・・・19.0%(1月模試との比較) ・3年:3教科総合・・・7.3%(7月模試との比較)</p>	<p>〇1年生:授業第一主義を徹底するとともに、「総合的な探究の時間」やLHRでの取り組み、個別面談を通して学びの意義を理解させ、学習意欲を喚起する中で、授業を通して教科書の基礎・基本の徹底を図る。 〇2年生:スタディサポートの課題の取り組みやスタディサブリの課題、動画・確認テストを計画的に配信することを通して、家庭で学習する習慣付けと弱点の補強に努める。 〇3年生:学力の定着や模試の意義に関する進路講演会を行うとともに、卒業後を見据え、模試や到達度テスト、事前教材を活用して学力向上を図る。 〇全学年:基礎学力の向上に向けて、全教職員共通理解のもと授業改善に努める。授業「わかる」→課題「できる」→確認テスト「できるを確かめる(実感する)」のサイクルを回す。</p>	<p>〇各学年の前年度末に行ったスタディサポート結果(GTZ:学習到達ゾーン)と、1・2年生は7月進研記述模試、3年生は7月進研記述模試または基礎力診断テストの結果(GTZ)を比べ、上昇した生徒の割合は以下の通りである。 <R5中間実績> 1年:3教科総合・・・48.5% 2年:3教科総合・・・25.3% 3年:3教科総合・・・4.7%</p>	C	<p>〇各学年とも生徒が主体的に学習に取り組む授業を心がけ、教科書の内容の理解を促すとともに、計画的な課題を提示し家庭学習に取り組ませることを通じて学習内容の定着を図る。 〇1年生は、英語・数学で習熟度別授業を実施し、生徒の習熟度に応じた授業を実施する。 〇1・2年生は、7月模試の結果分析を行ったうえで、計画的に模試の過去問演習等を取り入れ、教科書レベルから模試レベルへの移行を図るとともに、学習リーダー(上位層)の育成に努める。 〇3年生は、授業に加え、放課後課外や学習サークルの活動を通して、受験力の育成を図り、さらなる学力向上を目指す。進路決定後も到達度テストの受験や各種講演会を通して、学習意欲の向上を図る。</p>
自らを律し、何事も率先して自ら行う力が身につく	基本的な生活習慣の確立	<p>〇生活習慣及びマナーやモラルを身につけ落ち着いて生活できている。</p> <p><指標> ・年間遅刻延べ回数(正当な理由・連絡がある者を除く)が生徒数の70%以下となる。 ・頭髪・服装指導対象者数、生活指導対象者数が前年度よりも減少している。</p>	<p>〇クラス担任、生徒会の協力も得ながら、整理整頓等に努め、教室内の整理整頓が継続できている。 〇指導票の活用とともに、保護者への連絡をとりながら、生徒指導を進めている。服装検査での指導件数は減少してきているが、服装検査時以外で化粧・スカート丈で指導を受ける生徒がみられる。生徒の問題行動等は令和3年度より減少している。 〇遅刻者数は、令和3年度よりも増加した。 <R4実績> ・年間遅刻延べ回数(正当な理由・連絡がある者を除く)は、生徒数の129.8%。 ・生活指導対象者数は、前年度より15.6%減少した。</p>	<p>〇教職員の日々の声かけにとどまらず、保護者への連絡の機会を逃さずに行い、生徒自身の個々の物事に対する考え方の改善を図る。(基本的習慣の確立、マナー・モラルの向上) 〇生徒会執行部及び教職員による朝の挨拶運動を継続していく。 〇定期的に学年間での情報共有を行い、全学年で統一した生活指導を行うとともに、機会をとらえて、生徒の規範意識の醸成を図る。 〇生徒会が主体となり、執行部・生活委員会を活用し、教室環境の整備や学校の校則(主に服装に関する事項)の見直しを進める。その取組を通して、より良い学校づくりに主体的に参画する意識を多くの生徒に身に付けさせるよう促す。</p>	<p>〇学年団・生徒会と協力し、学習環境の整備等に努めた。 〇常に保護者への連絡を行い、生徒指導を進めているが、頭髪・服装で指導を受ける生徒が一定数いる。 <R5中間実績> ・8月末時点での遅刻回数(通院等正当な理由がある者を除く)が生徒数の73.9%。 ・8月末時点での生徒指導対象者数は、前年度と比べて少し増加している。</p>	C	<p>〇服装指導と合わせて、家庭連絡をその都度行い、家庭と協力して対応する。 〇個別指導を通してポイントを絞って指導、説諭することで、5S(整理・整頓・清掃・清潔・躰)等の必要性やルール、マナーを守ることを理解させ、徹底させる。</p>
	生徒会活動・部活動の充実	<p>〇どの生徒も生徒会活動に主体的に参加し、成功体験を通して達成感を得ている。また、学校生活や行事の中で、リーダーシップを発揮し企画運営なども自主的に行う生徒が増えている。 〇志を持ち夢を叶えるための競技力と精神が身につけている。自ら考え取り組むことで、集中力を高め、効率的な部活動を実践している。体育コースの生徒は、講演会や講習会を通して、トップアスリートを目指す意識レベルを高めている。</p> <p><指標> ・生徒アンケート「学校行事に積極的に参加している」で評価AとB合わせて90%以上となる。 ・県大会優勝6部以上。全国大会出場8部以上、全国大会出場者数のべ85名(全校生徒の3割)以上となる。</p>	<p>〇育英祭に向けては、クラスLHRの回数、各委員会の回数を増やすことで、生徒主体で準備ができた。アンケートでは「全体的によかった」が98%であった。 〇10月に後期生徒会役員選挙を実施、会長副会長ともに投票による選挙となった。新執行部体制のもと球技大会を行い、生徒が主体となったより良い学校づくりを進めた。 〇3年体育コース(17名中)上級学校へ進学する生徒は14名おり、その内7名が競技を継続する。 〇全国高校総体に陸上・レスリング・ソフトボールが出場し、男子バレーボール部は全日本バレーボール高等学校選手権大会に6年連続出場した。また、レスリング部は全国選抜大会に団体・個人(5名)が出場する。 〇山岳部はクライミング競技で日本代表として2名が世界大会に出場した。 <R4実績> ・生徒アンケート「学校行事に積極的に参加している」・・・96%。 ・県大会優勝のべ6部。全国大会出場のべ9部、全国大会出場者数のべ93名。</p>	<p>〇主体的に生徒会活動を行うことができるよう支援するとともに、執行部や各種委員のリーダーシップを育成する。 〇行事におけるクラス内での係りの仕事を共有できるようクラスに提案する。 〇部活動未加入者にボランティアサークルに加入するよう呼びかけ、ボランティアなどに参加するよう促す。(体育コース) 〇スポーツ・文化芸術活動重点校として、体育コースの取組である「各種講演会・講習会」を通し、競技力の向上に繋げている。</p>	<p>〇育英祭に向けて、クラスLHRの時間が十分に確保できなかったが、実行委員会を中心に生徒主体で準備ができた。アンケートでは「全体的に良かった」と回答した生徒が97.9%であった。 〇生徒会執行部の活動を継続して行い、生徒が主体となったより良い学校づくりを進めている(あいさつ運動やインスタ情報発信など)。 〇インターハイに陸上部、レスリング部、バレーボール部(男子)が、全国高総文祭に新聞部が県の代表として参加した。 〇山岳部はクライミング競技で1名がアジア大会に出場した。 〇3年体育コース(23名中)上級学校へ進学希望する生徒は12名おり、その内4名が競技を継続する予定である。</p>	B	<p>〇今後開催予定の球技大会では、生徒たちが主体となって運営できるように、キャプテン会議を設定し、各種目のキャプテンに内容、ルール等が確実に伝わるようにする。 〇後期生徒会が主体となり、教室環境の整備やあいさつ運動などに取り組む。その取組を通して、より多くの生徒がより良い学校づくりに主体的に参画する意識を高める。 〇部活動未加入者(中途退部者も含め)を把握し、ボランティアなどに参加するよう促す。 〇今後の体育コースの取組として、スポーツマッサー講習会(2年生)を計画通り実施する。また、トップアスリート講演会を実施し、競技力向上につなげていく。</p>

年 度 当 初				評 価 結 果 (9) 月			
評価項目	評価の具体項目	目標(年度末の目指す姿)	現状(令和4年度実績等)	目標達成のための方策	経過・達成状況	評価	改善方策
自他を思いやり、他と協力する力が身につく	学校行事・学級活動の充実	○どの生徒も学校行事やLHRの活動を通じて、他者との協調性や思いやりを身に付けるなど、人間力の向上が見られる。 ○体育コースの生徒は、各種実習を通して、集団生活での協力・協調性を身につけている。 <指標> 生徒アンケート「学校行事やLHRの活動を通じて他者との協調性や思いやりを身につけることができています」で評価AとB合わせて90%以上となる。	○育英祭では、ルールを守り、各クラスがよく協力して取り組めた。 ○体育コースの行事については、コロナの影響により、3年キャンプ実習が宿泊なしの日帰り3日間で実施した。2年生のスキー実習も宿泊なしの3日間で実施した。1年生の環太平洋大学研修は日帰りで実施、上級学校への意識付けができた。大運動会では、企画・準備段階から意識をもって取り組めた。1.2年生対象の各種講演会も計画通り進んでいる。 ○9月に行われた運動会では、2年生体育コースも集団行動に参加し、協力して実施できた。 <R4実績> ・生徒アンケート「学校行事やLHRの活動を通じて他者との協調性や思いやりを身につけることができています」・・・98%	○育英祭をはじめとする学校行事やLHRなどでは、クラスの運営委員にクラス全員で協力できるような支援を行い、人間力の育成につなげる。 ○執行部員が中心となり、学校行事を企画する。(体育コース) ○「各種実習」を実施し、人間性や協調性を養う。 ○定期的に体育コース集会を開き、体育コースの一員として、自覚ある行動及び習慣を身に付けさせる。	○育英祭では、ルールを守り、各クラスがよくまとまって取り組めた。 ○体育コースの行事については、8月に3年キャンプ実習をテント宿泊ありで3日間で実施できた。運動会では、体育コース主体の行事から生徒会執行部主体の行事となり、企画・準備段階から意識をもって取り組んだ。 ○10月の運動会では、昨年に続き2年生体育コースも集団行動に参加し、協力して取り組めた。 ○体育コース集会は4月に開催し、体育コースとしての自覚等を持つように話をした。	B	○今後の行事となる球技大会については、選手決定において話し合いをしながらクラス皆で決定するよう段取りを行う。 ○体育コースについては、各種実習(スキー・ゴルフ)でも準備の段階から役割等を持たせ、リーダーとしての責任を持たせる。また、講演会や実習についても計画通り実施していく。 ○体育コース集会は、定期考査前など機会を捉えて実施する。
	安全意識・安全技術の向上	○生徒が安心して安全に学校生活を送ることが出来る環境作りに取り組んでいる。 <指標> 生徒アンケート「学校は、いじめや差別を許さない人権意識のもと一人ひとりを大切にしている教育を行っている」、「学校は、生徒の心身の悩み等の相談に適切に対応している」で評価AとB合わせて90%以上となる。	○救急救命講習は、冬季休業中に実施した。 ○「学校生活に関する調査」は、1学期に2回(5月・7月)2学期に1回(9月)3学期に1回(2月)実施した。その結果は、環境保健部と各学年で情報を共有し、その後の面接指導等に活用した。 <R4実績> ・生徒アンケート「学校は、いじめや差別を許さない人権意識のもと一人ひとりを大切にしている教育を行っている」・・・95% ・生徒アンケート「学校は、生徒の心身の悩み等の相談に適切に対応している」・・・93%	○教職員及び生徒(部活動各部員)対象の救急救命講習を今年度も実施し、全員の受講をめざす。 ○いじめ防止基本方針に沿った「学校生活に関するアンケート」を今年度も4回実施するとともに、全教科・全領域にわたり、組織的な対応を図る。	○救急救命講習は、熱中症対策のため夏季休業中には実施せず、冬季休業中の実施を予定している。 ○「学校生活に関する調査」は、1学期は5月と7月に実施し、環境保健部と各学年で情報を共有して、その後の面接指導等に活用した。	B	○今後は、避難訓練等の機会も捉えて、様々な災害、負傷等への対応の周知を図り、安全確保の徹底に努める。 ○「学校生活に関する調査」は、今後も各学期に1回を目処に実施し、生徒の実態把握に努めるとともに、環境保健部と各学年との連携を密にし、日常的な保健・相談業務を継続していく。
地域を支える社会人として必要な資質が身につく	「地域探究の時間」の発展・充実	○1年生:探究活動の基礎的な知識・技能を身につけている。 ○2年生:探究活動の実践を通し、自己肯定や社会貢献に対する意識の高まりとともに、ソーシャルスキルの向上が見られる。 ○3年生:探究活動の学びが自らの進路実現へつながった。 <指標> 1年:「地域探究入門」の事後アンケートで、「探究活動の基礎的な知識・技能が身についた」と感じる生徒が90%以上となる。 2年:「地域探究」の事前・事後アンケートで、「地域貢献に対する志」などの高まりが平均して10%以上向上する。 3年:「地域探究」の学びが「進路実現につながった」と自己分析する生徒が学年全体の50%以上となる。	○1年生:テキストを使用し、スキル学習を中心に10時間の活動を行った。また、2年生のフィールドワークを見学に行き、次年度の活動をイメージさせた。 ○2年生:地域の方々にお世話になり、フィールドワークやインタビューを通じて地域課題の解決を考察し、発表にまとめた。そのうち1チームが「中部高校生フォーラム」に参加した。また、校内発表会で選考された代表チームは岡山県真庭高校探究成果発表会に参加した。 ○3年生:卒業時アンケートにおいて、「「地域探究の時間」の学びが進路実現につながった。」の項目に肯定的な回答した生徒は、53%であった。 <R4実績> ・1年生:「探究入門」の事後アンケートで「探究活動の基礎的な知識・技能が身についた」・・・94% ・2年生:事前・事後アンケートで、「地域貢献に対する志」などの高まりが平均して1.9%減少した。 ・3年生:「地域探究」の学びが【進路実現につながった】・・・53% 【地元の魅力をたくさん知った】・・・91% 【地元で働きたい】・・・64% 【地元で暮らしたい】・・・74%	○1年生:1学期に職を通して社会と自分との関りを考えることで、キャリア意識を高め、2学期から実施する「探究入門」の授業につなげる。 ○2年生:生徒たちの興味関心・問題意識を中心とした課題設定をするために、年間計画やグループ分けの方法・教員配置の仕方などの環境を整備する。また、地域の方々と連携しながら、フィールドワークなどの体験活動を行うとともに、その振り返りを行い、社会貢献に対する意識を高める。 ○3年生:進路探究の学びや複数の教職員との面談を通し、自らの問題意識やあり方等を見つめ、自分自身の進路目標を明確にさせる。	○年度当初立てた指標に対する取り組み状況は以下の通りである。 1年:年間指導計画通り「地域探究入門」で、課題設定の仕方から調査・探究・まとめ方について学習を進めており、今後フィールドワークも実施する。 2年:年間活動計画通りテーマに沿ってフィールドワークを行い、そこで見つけた課題を整理し、解決法や解決へのアプローチの仕方について調査・研究を行っている。 3年:具体的な志望先を決定し、志望理由書を作成したり、面接対策を行うことを通して2年次に行った「地域探究」を振り返り、学習の成果をまとめている。	B	○1年:年間指導計画通り「地域探究入門」を進めながら、フィールドワークも実施しつつ、次年度の「地域探究」に向けた実践力を養成する。 ○2年:1学期に行った「地域探究」の内容をまとめ、校内発表の準備を行うことを通して、課題解決力や表現力を養い、進路意識を高めるとともに、進路実現に向けて主体的に学ぶ意欲の向上を図る。 ○3年:2年次に取り組んだ「地域探究」の内容を振り返り、まとめることを通して、地域の良さを再考するとともに、「地域探究」の成果を入試や就職試験に活用し、進路実現を目指す。
	業務改善の取組の推進	業務の精選と組織的な実施	○全教職員が月45時間、年360時間以内の時間外業務を遵守して、質の高い業務を行っている。 <指標> 全教職員が月45時間、年360時間以内の時間外業務を遵守している。	○毎月開催する衛生委員会で、時間外業務時間が多い教職員について話題にし、互いに声かけを行うことで、教職員自身の自覚を促し、時間外業務の減少につながっている。 <R4実績> ・時間外業務が月45時間を超えた教職員はのべ3人、年360時間を超えた教職員は0人。	○業務の平準化を図るため、分掌再編を行った。 ○教職員のシステム入力を徹底し、適宜、見直しを持ちながら業務に当たるよう呼びかける。 ○部活動の在り方に関する方針を遵守し、各部活動が見直しをもって活動できるよう、部活動の年間計画及び月間計画の見直しを行うとともに、日ごろから生徒が自ら考えて活動するように、定期的に部会をもつなどして、意識や意欲を高め、限られた時間内での活動の効率化を図る。	○毎月開催する校内衛生委員会で、時間外業務時間が多い教職員について確認にし、声かけを行っているが、部活動などで業務が集中する時期があった。 <R5中間実績> 4月～9月までで時間外業務が月45時間を超えた教職員はのべ2人(R4は0人)、合計180時間を超えている教職員は4人(R4は1人)。	B
	生徒への適切な対応	○3年生の進路指導(教科・面接指導等)において、計画的・組織的に対応し、時間外業務の上限を遵守することを通して、生徒自身に進路実現に向けて必要な態度や能力を身に付けさせる。 <指標> 3年生の受験シーズン期(9月～12月)における時間外業務で、月45時間を超過する教職員の数が前年度より減少している。	○3年生の進路指導(個別指導)の組織的に行う体制作りに向けて、小論文や面接に関する資料を適宜配布し、アナウンスを行った。また、昨年度に引き続き、推薦入試に向かう生徒の指導を各教職員で割り振りすることで、教職員一人が担当する生徒の数を少なくした。 ○3年担任団には、夏休みに入るまでに、進路指導に関する年間スケジュールを提示して、生徒対応を計画的に行えるようにした。 <R4実績> ・3年生の受験シーズン期(9月～12月)における時間外業務で、月45時間を超過する教職員は1人。	○引き続き、時間外業務が特に多い教職員には、適宜、声かけを行い、時間外業務の実態を把握する。また、3年生への個別指導を教職員で協力して行う。	○総合型選抜や学校推薦型入試に向かう生徒の指導を各教職員で割り振りすることで、教職員一人が担当する生徒の数を少なくした。 ○3年担任団には、夏休みに入るまでに、進路指導に関する年間スケジュールを提示して、生徒対応を計画的に行えるようにした。 <R5中間実績> 9月における時間外業務で、45時間を超過する教職員の数は0人。	A	○引き続き、3年生への個別指導を教職員で協力して行う。